

NGO 神戸外国人救援ネット・ニュースNo.68

NGO Network for Foreigners' Assistance KOBE NEWS No.68



発行／NGO 神戸外国人救援ネット(代表／飛田雄一)

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 1-28-7 TEL&FAX:078-271-3270

ホットライン専用 TEL:078-232-1290

E-mail:gqnet@poppy.ocn.ne.jp * <http://gqnet.webcrow.jp/>

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

★ 巻頭言★

困窮外国人のためのシェアハウス 「みんなのいえ」、長田区に開設しました

坂西卓郎 (PHD 協会 事務局長)

初めまして、PHD 協会の坂西と言います。2020年11月より救援ネットに加盟させていただき、運営委員を務めさせていただいています。

PHD 協会は国際協力 NGO として 1981 年に設立されました。創設期を支えてくれたのは故草地賢一総主事で、救援ネットの設立にも深く関わったと聞いています。

救援ネットに加盟させていただききっかけは 2020 年 10 月に国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」を開設したことです。構想時は難民の方のシェルターを想定していましたが、コロナ禍を受け、困窮している外国人に広く開放しました。小さなシェアハウスですが、思いのほかニーズが多く、急遽二段ベッドを増設し現在定員は 9 名、今までに延べ 7 名が入居してくれました。執筆時点では余裕はありますので、居室が必要な方が居ればお声がけ下さい。

「思想」: シェアハウスを開設した動機は「共に生きる実践」、そして「贖罪」があります。この二つは当会の国際協力活動の目的でもあり、今までの海外での実践を国内でも、という想いで始めました。

「共に生きる実践」: 今や外国人労働者は 170 万人を超え、その存在なくしては私たちの生活は成り立たないという事実があります。コロナ禍対策でステイホームが言われましたが、それらも夜中に働く外国人労働者なくしては成立しないものではないでしょうか。

安価な労働力としてではなく、私たちの隣人としてどのように「共に生きる」のか。シェアハウスを通じて挑戦中です。

「贖罪」: PHD 運動提唱者であり、被爆者であられた岩村先生は平和への想いが強く、また日本が犯した戦争責任への贖罪の気持ちから、旧日本軍が甚大な迷惑をかけた地域からの研修生招聘を掲げました。ミャンマーなどの東南アジアだけでなく、ソロモンなどの南太平洋諸国から招聘していたのもその一環です。

国内での活動も同じで、入管収容センターにおける長期収容の問題、技能実習生や留学生が多額の借金を抱えて来日し、日本で夢や希望が絶たれる現状には日本社会の一員として申し訳なさを強く感じます。なんとか現状を変えたいというのが私たちの原動力でもあります。

「今後の展望」: 先日、兵庫県から居住支援法人として認可を受けました。今後はシェアハウスを軸に居住支援活動を展開してきます。

就労へのアプローチとしては登録支援機関、職業紹介業の取得、さらには PHD 介護研修も開始予定です。不当な中間搾取のない就労を目指します。生活面では日本語指導、食料支援、料理指導、各種行政手続きのサポートなどを行っていきます。

日本を選んで来てくれた人たちが Happy な状況になることを願って寄り添っていきたいと思っています。

国内での居住支援活動の経験はまだ一年にも満たない初心者で、右も左もわかりません。できることも少なく、失敗も多いです。経験豊富な救援ネットの皆様から教えていただき、多文化共生の一助となれるよう努めていきます。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

日本の難民問題を考えた2月—二つの学習会参加報告

地福 春香(救援ネットインターン生)

2021年2月11日(木・祝)及び23日(火・祝)に、それぞれ「入管管理施設の長期収容問題」と「神戸と難民」についての学習会を開催しました。未だ新型コロナウイルスの影響が強い昨今ですが、様々なプラットフォームを駆使することで、日本各地、さらには海外からも多くのご参加をいただきました。普段の生活ではあまり強く意識することのない、「難民」の方々の権利や歴史を深く学べた有意義な機会でした。

11日に実施した高校・大学生対象の「難民とともに入管長期収容問題を考えるオンライン学習セミナー」は、約45名の学生・教員の皆様から参加申し込みをいただきました。最近の入管施設に関する国内報道や、国連事務総長による長期収容の批判などを受けてか、若者の間でも注目が高いトピックだったようです。学習会前半は、難民事業本部の中尾さんを講師にお招きし、近年問題となっている入管長期収容問題の実態について具体的なデータを検証しながら学びました。また被収容者の法的地位や施設内部の様子、また難民申請の難しさなどをわかりやすく解説していただきました。後半は、昨年12月に制作した、二名の被収容者の方々へのインタビュー動画を放映しました。生きるためにやむを得ず国から逃れてきたお二人ですが、来日してからも不透明な難民申請のプロセスや過酷な収容生活、仮釈放を受けても地域社会とかかわりを持ってないことにより、孤独で精神的にも追い込まれる毎日を送っていると言います。実際に「難民」とかかわった経験がない方々がほとんどだったため、難民申請に至る背景や入管施設内での待遇、被収容者間での関わりなどについて、参加者の皆様から様々な質問が飛び交いました。

23日には、バレンタインデーと絡め、神戸でチョコレート産業を発展させた白系ロシア人難民の軌跡をたどりました。東海大学の中西先生の解説のもと、ゴンチャロフ氏やモロゾフ氏といった白系ロシア人がロシア革命の影響を受け日本へ亡命するまでの経緯や、戦時中・戦後の日本での生活について学び、今まで知らなかった神戸の歴史だけでなく、戦争を乗り越えた難民の方々の強さに驚くばかりでした。学習会後半は、中西先生・嘴本さんがガイド役となり北野エリアを散策。今回の題材である白系ロシア人難民と関わりの強いハリストス正教会、ゴンチャロフの旧本店跡、ロシア人難民のコミュニティであったロシア人クラブの跡地、モロゾフ氏の旧住居、異人街に残るロシア人難民のお屋敷など多くのスポットを巡り、ロシア人難民の方々が築き上げ、神戸に残していった遺産に思いを馳せました。

現在も難民の受け入れに関して多くの問題を抱える日本ですが、苦しむ人が一人でも少なくなるような社会となることを願ってやみません。これからの日本を担う一若者として、現行の問題の背景を理解し、学び続ける姿勢の重要性に改めて気づくことができました。



神戸ハリストス正教会の前から

※2021年2月11日(木・祝)「難民とともに入管施設の長期収容問題を考える」オンラインセミナーは、公益財団法人コープともしびボランティア振興財団 ボランティア活動助成金事業として実施。

※2021年2月23日(火・祝)「白系ロシア人と神戸—神戸のチョコレート産業を作り上げた人たち—」講演会とまち歩きは、ひょうごボランタリー基金「地域づくり活動 NPO 事業助成(先導的・先駆的事業)」助成事業として実施。

2020年度 ひょうご多文化共生総合相談センター (週末相談)事業実施報告

2019年4月1日より「ひょうご多文化共生総合相談センター」がスタートしました。月～金 9時～17時は(公財)兵庫県国際交流協会外国人県民インフォメーションセンターが、土・日曜日 9時～17時はNGO 神戸外国人救援ネットが担当しています。以下に2020年度の相談件数をご報告します。

相談件数【週末】 393件 (※NGO 神戸外国人救援ネットが担当した土曜日・日曜日分)

相談言語【週末】

英語	タガログ語	日本語	スペイン語	アラビア語	ポルトガル語	中国語	ベトナム語
108	107	95	45	18	13	6	1

相談内容【週末】

出入国	婚姻	くらし	社会保障	住居	医療	教育	労働
109	63	56	50	36	34	23	23
就職	運転免許	税金	国籍等	日本語学習	ボランティア	交通事故	その他
5	5	5	4	2	2	1	24

相談件数【全体】 3,630件 対前年度比 26.6%増 (2019年度:2,868件)

(※外国人県民インフォメーションセンター + NGO 神戸外国人救援ネット)

相談言語【全体】 スペイン語 1,742件、ポルトガル語 664件、日本語 449件、英語 394件、中国語 226件

相談内容【全体】 「くらし」607件、「医療」590件、「社会保障」510件、「出入国等」378件、「教育」347件

(兵庫県「2020年度ひょうご多文化共生総合相談センターの相談状況」

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20210514_7664.html)



共感寄付へのご協力ありがとうございました

NGO 神戸外国人救援ネットは、2018年4月1日から2021年3月31日までの間、ひょうごコミュニティ財団が実施する「共感寄付」に参加し、「すべての外国人が安心して暮らせる“多文化共生社会”実現のために」250万円を目標として寄付をお願いいたしました。

その結果、167件、計 3,000,200 円の寄付をお寄せいただきました。本当にありがとうございました。頂きました寄付は多言語ホットライン、通訳同行支援など支援活動を行うために大切な、通訳者の謝金、交通費に当てさせていただきます。

2021年度も引き続き「共感寄付」に参加することになりました。共感寄付と通じてご寄付を頂くと、寄付控除(税額控除あるいは所得控除)の税制優遇を受ける事が可能です。

日本で生活する外国人、外国にルーツを持つ方は今後も増加していきます。また新型コロナの影響もあり、深刻な相談が次々と寄せられる状況は、更に広がっており、救援ネットの役割はますます重要になっていると認識しています。活動を継続するための安定した財政基盤をどのように整えるのかも今後の重要な課題です。引き続き、皆様のご協力をお願いする次第です。

共感寄付に関するご案内は、同封のピンク色のチラシ、または下記のホームページよりご覧いただけます。

ひょうごコミュニティ財団 共感寄付 <https://hyogo.communityfund.jp/kyokan/>

NGO 神戸外国人救援ネット <http://gqnet.webcrow.jp/>



2020 年度 ホットライン事業報告

2020 年度のホットラインの相談件数は、2019 年度と比べて漸減している。これはコロナウィルスのパンデミックのため出入国ができなくなっていることによる影響も考えられる。しかし高止まりの傾向は続いている。

他方でコロナ禍の影響で失職したという相談や、生活困窮に陥ったとの相談は増えていた。中には PCR 検査で陽性となって自宅療養をしているが、食料も手持ちのお金もなくなってきたとの相談や発熱しているが在留資格がなくお金もないので、行政検査として無料の PCR 検査を受けたいとの相談も寄せられた。

国籍別の相談件数は引き続き第 1 位はフィリピンで第 2 位が日本になっている。日本人の相談は配偶者の場合がほとんどだが、知り合いの外国人といったケースもあった。続いてブラジル、中国、ペルーとなっている。国籍が多様化しているのはアフリカ諸国からの難民認定申請者の相談が増え続けていることによる。

2 万人といわれている帰国困難なベトナムの技能実習生や留学生からの相談は少なく、これらの相談はベトナム人コミュニティの SNS を通じて行われていると思われる。在留資格がないかベトナム人コミュニティに属さないベトナム人からの相談は来ている。集住地域にあるベトナムの仏教寺院がシェルターとなっているが、件数が多くすでに限界に達している。

言語別では相談者の国籍別を反映してタガログ語が第 2 位だが、滞在期間が長い相談者は日本語での相談になることも多く第 1 位は日本語となっている。これに英語、スペイン語、ポルトガル語が続いている。難民認定申請者の相談は英語あるいはフランス語で行うのでそれらの件数に入る。少数言語が必要な場合に通訳者が見つからないこともある。

相談内容別では在留資格が第 1 位ですが件数としては減少している。しかし在留期間更新申請書を作成してほしいという依頼は相変わらずきている。家族関係、DV の相談はやや減少しているが、医療の相談は増加し、社会保障、労働の相談は昨年度と同程度になっている。

【新規相談件数】 138 件 【相談者性別】 男性：44 名 女性：98 名

【国籍別相談者数】

フィリピン	日本	ブラジル	中国	ペルー	ベトナム	ロシア	チュニジア
48	13	12	11	8	6	4	4
ネパール	ラトビア	ナイジェリア	ボリビア	アメリカ	エジプト	不明	その他
3	3	3	2	2	2	5	18

【相談内容】

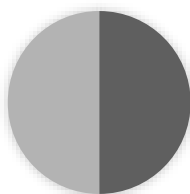
在留資格	家族関係	社会保障	住居	医療	労働	DV	教育	国籍	刑事事件	その他
43	23	19	18	16	15	10	5	1	1	23

【言語別】

日本語	タガログ語	英語	スペイン語	ポルトガル語	中国語	ベトナム語
46	38	23	16	12	3	3

【相談対応形態】

来所
69件
(50%)



電話
69件
(50%)



2020 年度 同行通訳・同行支援事業実施報告

2020 年度の同行通訳・同行支援事業による同行通訳・同行支援件数は 2019 年度より 10%増加している。DV など困難ケースの相談が多く、同行回数が増加の一因となっている。さらに難民認定申請者の増加が同行通訳・同行支援の件数の増加要因となっている。支援件数の増加傾向がさらにステージを一段あげた状態にある。

国籍別では半数近くがフィリピンとなっているのはこれまでと同じ傾向だが、中国、韓国、日本の支援件数が減少し、難民認定申請者で西アジアのイラン、シリア、アフリカ諸国が増加している。

言語別では日本語、タガログ語、英語で 8 割を占めているが、英語は母語の通訳者が十分でなく相談者が英語対応で可能なケースも含まれている。中国語、タイ語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、アラビア語の需要も一定数あり、必須となっている。

相談内容別では在留資格が第 1 位になった。これには在留特別許可を求めるケースも含まれていて、ここ数年は在留特別許可を得たケースが続いている。在留資格で大半は在留期間更新申請の依頼が多く、申請書作成を行ってきた。続いて家族関係、DV が並び医療、住居、社会保障となっている。

同行先は法律事務所が一番多いのは例年通りだが、相談者宅というのが増加した。続いて医療機関、役所、裁判所と続いている。

同行通訳・同行支援事業としてコロナ禍での特徴がはっきりとは出ていないように見えるが、特別定額給付金の申請書作成やその他のコロナ関連の給付金・支援金の請求などが含まれている。これにベトナムの帰国困難となっている技能実習生や留学生が少数だが入ってきた。

【同行件数】 387 件 【相談者性別】 男性：120 名 女性：291 名

【国籍別相談者数】

フィリピン	中国	ウガンダ	チニシア	イラン	タイ	ブラジル	ベトナム	ガーナ	モロッコ	ラトビア	韓国	日本	シリア	ナイジェリア	ロシア	セネガル	ペルー	モルドバ	コロンビア	その他
198	38	19	19	18	12	11	11	9	9	8	8	7	7	6	5	5	4	4	3	10

【同行先】

法律事務所	相談者宅	医療機関	役所	裁判所	入管	救援ネット	不動産会社	母子寮等	教育機関	警察署	その他
99	72	48	46	33	26	22	18	9	8	4	38

【同行内容】

在留資格	家族関係	DV	医療	住居	社会保障	労働	教育	刑事事件	その他
124	113	99	50	43	42	10	9	6	30

【言語別】

日本語	タガログ語	英語	中国語	タイ語	ポルトガル語	ベトナム語	アラビア語	スペイン語	フランス語	ロシア語
136	113	85	22	13	10	10	9	8	2	1



NGO神戸外国人救援ネット 2020 年度会計報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

収入の部		支出の部	
会費および寄付金	¥2,389,013	生活相談事業費	¥2,316,262
委託費・補助金	¥6,420,774	生活相談事業費（週末相談）	¥2,921,708
助成金	¥4,200,000	同行支援事業費	¥2,494,843
事業収入	¥353,900	その他事業費	¥2,642,881
その他の収入	¥9,000	印刷費	¥17,700
受取利息	¥20	消耗品費	¥104,227
		資料・備品購入費	¥183,206
		通信運搬費	¥613,250
		保険料	¥31,063
		事務局手当等	¥1,830,226
		他への寄付・会費	¥29,000
.....		
<収入小計>	¥13,372,707	<支出小計>	¥13,184,366
		収支差額	188,341
前年度繰越金	¥1,533,001	2021年度への繰越し	¥1,721,342
合計	¥14,905,708	合計	¥14,905,708

NGO神戸外国人救援ネット 2021 年度予算案

(2021年4月1日～2022年3月31日)

収入の部		支出の部	
会費および寄付金	¥2,000,000	生活相談事業費	¥2,668,380
委託費・補助金	¥7,029,624	生活相談事業費（週末相談）	¥2,856,000
助成金	¥1,250,000	同行支援事業費	¥2,550,000
事業収入	¥300,000	その他事業費	¥300,000
		印刷費	¥20,000
		消耗品費	¥100,000
		資料・備品購入費	¥200,000
		通信運搬費	¥625,000
		保険料	¥30,000
		事務局手当	¥1,900,000
		他への寄付・会費	¥29,000
.....		
<収入小計>	¥10,579,624	<支出小計>	¥11,278,380
前年度繰越金	¥1,721,342	2022年度への繰越し	¥1,022,586
合計	¥12,300,966	合計	¥12,300,966

2021 年度活動計画

- 1) 事務局体制
月・水曜日 10:00 ~ 18:00、金曜日 10:00 ~ 20:00、土・日曜日 9:00 ~ 17:00
- 2) 多言語生活相談ホットライン
毎週金曜日 13:00 ~ 20:00 (一部 外国人県民に対する相談事業として実施)
対応言語(常時): 英語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語
対応言語(予約制): 中国語、ベトナム語、ロシア語

毎週土・日曜日 9:00 ~ 17:00 (ひょうご多文化共生総合相談センター)
対応言語(三者通話): 英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語
対応言語(翻訳アプリ): 韓国語、タガログ語、インドネシア語、タイ語、ネパール語
- 3) 兵庫県内各地での移動生活相談会(祝日)
- 4) よりそいホットライン 多言語ラインに協力
- 5) 相談のフォローアップ/同行支援・同行通訳
外国人 DV 被害者支援
(兵庫県 DV 被害者自立支援活動事業、神戸市 DV 被害者支援活動)
難民申請者の生活支援
外国人の住宅セーフティーネット確立のための取り組み
コロナ禍での生活困窮者支援 など
- 6) 学習会・研修会の実施 (神戸まちづくり六甲アイランド基金助成事業など)
- 7) 入管ウォッチャーズ(RINK、大阪シナピス、救援ネット)
多言語による収容者ホットライン(金曜日 13:00~17:00)
- 8) ネットワークと協力活動
移住者と連帯する全国ネットワーク
すべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク(RINK)
ひょうご DV 被害者支援連絡会議(HYVIS)
退去強制手続きと子どもの権利ネットワーク
人種差別撤廃NGOネットワーク
有償家事労働ネットワーク
兵庫県在日外国人教育研究協議会
外国人相談窓口担当者連絡会(GONGO)
協議離婚問題研究会(リコン・アラート)
ひょうご働く人の相談室
- 9) 通訳者派遣、翻訳コーディネーター
- 10) 組織体制・財政基盤確立のための検討と取り組み
- 11) ニュースレターの発行(5月、8月、12月)



2021 年度 NGO 神戸外国人救援ネット運営委員及び協力弁護士

<運営委員>

飛田 雄一(代表、神戸学生青年センター)
 森木 和美(副代表)
 齋本 郁(神戸公務員ボランティア)
 神田 裕(たかとりコミュニティセンター)
 日比野 純一(FM わいわい)
 金 宣 吉、フフデルゲル(神戸定住外国人支援センター)
 北村 広美(多文化共生センターひょうご)
 李 相 泰(在日フォーラム)
 吉富 志津代、李 裕 美(多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティ)
 村山 勇(兵庫日本語ボランティアネットワーク)
 寺下 賢志(申請取次行政書士)
 山野 真実子(カトリック社会活動神戸センター)
 鋤柄 利佳(アジア女性自立プロジェクト)
 齊藤 善久(神戸大学)
 鳥本 敏明(日本ベトナム友好協会兵庫県連)
 坂西 卓郎、濱 宏子(PHD 協会)
 草加 道常(NGO神戸外国人救援ネット相談員、RINK)
 村西 優季(NGO神戸外国人救援ネット事務局)

<協力弁護士>(順不同、敬称略)

相原 健吾	林 寛子
石田 真美	韓 検 治
今西 雄介	平野 晃子
清田 美夏	別所 美保
桑原 至	福田 大祐
坂本 知可	北江 康親
佐藤 功行	増田 正幸
鄭 聖 愛	増田 祐一
仲尾 育哉	松本 隆行
野田 倫子	梁 英 子
野村 明弘	吉井 正明
白 承 豪	

主な事務局活動

*毎週(月・水・金・土・日)事務局開所、(金)多言語生活相談ホットライン

2021 年

- 1 月 13 日(水) 神戸YWCA 主催 居住支援フォーラム(オンライン)
- 1 月 18 日(月) 救援ネット運営委員会(オンライン)
- 2 月 8 日(月) 救援ネット運営委員会(オンライン)
- 2 月 11 日(木祝)「難民とともに入管施設の長期収容問題を考える」セミナー実施(オンライン)
- 2 月 13 日(土) ひょうごDV被害者支援連絡会議(HYVIS) 主催セミナー(オンライン)
- 2 月 23 日(火祝)「白系ロシア人と神戸ー神戸のチョコレート産業を作り上げた人たちー」
講演会+まち歩き 実施(オンライン)
- 2 月 24 日(水) ひょうごDV被害者支援連絡会議(HYVIS) 定例会(オンライン)
- 3 月 8 日(月) 救援ネット運営委員会(オンライン)
- 3 月 11 日(木) ひょうごDV被害者支援連絡会議(HYVIS) 主催セミナー(オンライン)
- 毎月 11 日 ダイエー神戸三宮店「幸せの黄色いレシートキャンペーン」

事務局活動時間について

★事務局活動時間は以下のとおりです。★

事務局開所時間：月・水曜日 10:00 ~ 18:00、金曜日 10:00 ~ 20:00、土・日曜日 9:00 ~ 17:00

生活相談ホットライン： 金曜日・・・英語、タガログ語、スペイン語(10:00 ~ 20:00)、
ポルトガル語(13:00 ~ 20:00)、中国語、ベトナム語、ロシア語(事前予約制)

NGO 神戸外国人救援ネットの活動は皆さんからの会費・カンパによって支えられています。今後ともご支援とご協力のほどよろしくお願い致します。

郵便振替<01100-2-60701 NGO 神戸外国人救援ネット>

救援ネット年会費 3000 円 年 3 回ニュースレターをお届けします。